



「平和への願いと、現場の今」

全鍍連 監事 関根 玲子

(株式会社黄金メッキ工場／神奈川県メッキ工業組合)

平素より全国鍍金工業組合連合会の皆様には大変お世話になっております。

全鍍連 監事を仰せつかっております株式会社黄金メッキ工場の関根玲子でございます。

まだまだ未熟者ではございますが、誠心誠意取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

少し前になりますが、SNSで「ママ戦争止めてくるわ」という言葉が話題になりました。子供を守りたい、平和であってほしいという純粋な気持ちに、子供をもつ多くの母親が心を動かされたのだと思います。言葉の表現に賛否はあったとしても、その根底にある「大切な人を守りたい」という感情には、多くの人が共感したと思います。

また、子どもの有無にかかわらず、「できることなら平和であってほしい」と願う気持ちは、多くの人に共通するごく自然なものだとも思います。

改めて感じるのは、平和な日常の大切さです。戦争は遠い国の出来事のように見えても、その影響は静かに、そして確実に私たちの暮らしや仕事にも広がっています。

私たち製造業にとって、すでに大きな影響として現れているのが原材料費の高騰です。特に、ホルムズ海峡封鎖の懸念によるエネルギー

ギー価格や物流コストの上昇は深刻で、金属、薬品、燃料など、さまざまな原材料価格に影響が及んでいます。これまで当たり前に入ってきていた材料の納期が不安定になったり、仕入れ価格が短期間で大きく変動したりする状況も起きています。原材料費の高騰は経営を圧迫し、コスト削減や代替材料の模索など、懸命な工夫が続けられていますが、その負担は決して小さくありません。

戦争は必ず誰かの暮らしや仕事に影響を及ぼします。前線で傷つく人だけではなく、故郷を追われる人、物価高に苦しむ人、原材料高騰に悩む企業、仕事や生活の先行きに不安を抱える人もいます。立場は違っていても、多くの人の日常や仕事に影響を受けています。

だからこそ私たちは、ただ無関心でいてはいけないのだと思います。平和を願うこと、日々の仕事を守ること、仲間と支え合うこと。そのためにも、同じ悩みや課題を抱える企業同士がつながり、声を上げ、支え合っていく組合活動の存在はこれまで以上に重要になっていると思います。一社だけでは乗り越えられないことも、仲間と知恵を出し合い、助け合うことで前へ進む力につながっていくと感じています。厳しい時代だからこそ、組合員の皆様と互いに支え合い、平和を願いながら、この状況を乗り越えていきたいと思っています。